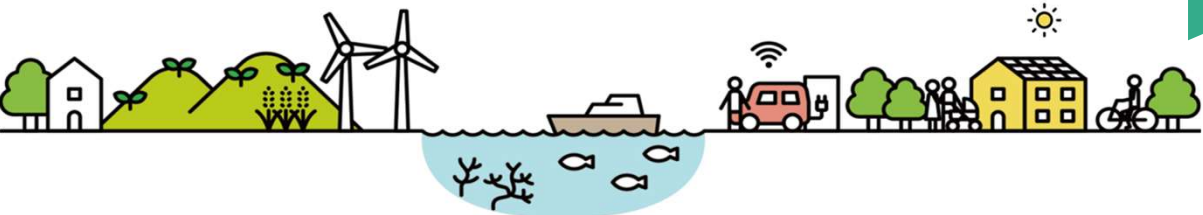


防府方式による藻場の環境保全と再生、海の未来づくり



期間

2023年2月～現在

場所

山口県防府市中浦漁港南東部、他



申請者

- ・ うみのまちづくり（株）
- ・ 山口県漁業協同組合吉佐統括支店
- ・ 一般社団法人 鋳田籠工法協会

概要

鋳鉄藻礁、種系、石材、MOFU-DX（鶏糞を利用した栄養ブロック）を複合的に組み合わせた藻場再生を防府方式と命名し、実証を行った。
ジャングルジム状の藻礁内部に海藻の付着した石材とMOFU-DXを投入し、各藻礁間にクロメを植え付けた種系を張り巡らせた。
その結果、藻礁での海藻の生成のみならず、かつて藻場のあった周辺部にもその再生が認められた。

【2023年度取得】藻場面積：0.226 ha、二酸化炭素吸収量：0.3 t

【2024年度】クレジット申請なし

活動

2023年2月	中浦に鋳鉄藻礁8基沈設 ベースライン計測
2023年6月	中浦にて藻場計測
2024年2月	0.3tのクレジット認証取得
2024年10月	食害魚捕獲・販売開始
2024年11月	野島に鋳鉄藻礁5基沈設 富海に鋳鉄藻礁5基沈設 中浦・野島・富海のベースライン計測
2025年1月	アイゴサミット開催

➤ 2024年度は、予算の都合上クレジット申請は実施していないが、モニタリング等の活動は継続、2024年秋からは食害魚であるアイゴの捕獲と社員食堂等への販売を開始した。

【環境改善：「铸铁藻礁」を用いた魚礁 & 藻場づくり】



●「铸田籠」とは

・山口県防府市の铸物会社が開発した組み立て式の铸物籠。

パネル枠とくさびの連結方式なので、持ち運びやすく、漁船の上でも組み立てできる。

・铸铁の耐腐食性を活かして有機溶剤などの塗料を使用しておらず、ゴミや有害物質を出さない。

・耐食年数132年。铸铁は100%リサイクルでき、パネルを組み替えることでリユースもしやすい。



河川(鰻生息環境改善)



河川(水辺の建材として)



海(魚礁)



漁船で持ち運べる



漁船の上で組み立て、海中に設置



水中でも作業しやすい独自開発のくさび

Gallery



鋳鉄藻礁（合計15基設置）



MOF-DXと石材の設置



種系の設置

設置直後



半年後の藻礁



藻礁周辺への波及



藻礁及びその周辺には魚の稚魚なども多く見られた



他活動

食害魚の販売



民間企業の食堂
メニューに採用



啓発用ポスター

ブルーカーボンの啓発活動



←アイゴサミット
瀬戸内沿岸の水産関係者で食害について
意見交換を実施

子ども食堂→
子どもたちにブルーカーボンについて説明

